

■R02. 12. 16 臨時記者会見内容

日時 令和2年12月16日(水) 午前9時～午前9時30分

場所 703会議室

出席 市長、総務部長、企画部長、地域創生部長

危機管理課長、財政課長、企画調整課長、商工港湾課長

酒田記者クラブ 7社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、YBC、YTS、TUY)

■市長発表内容

【新型コロナウイルス感染症関連経済対策事業について】

明日が12月定例会の最終日になる。現在地元の飲食店等が大変厳しい状況にあること、Gotoトラベルキャンペーンも12月28日から一時停止となること、そういった状況に鑑み、本市における新型コロナウイルス感染症への経済対策事業として追加の補正予算を行うこととした。明日の議会最終日に追加提案するが、今日はその内容について発表させていただく。

これまで本市では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う本市独自の経済対策として、10月1日からペイペイと連携したポイント還元キャンペーンを実施しており、先だって6億円の補正を行った。

しかしながら、11月中旬以降、本市を中心として新型コロナウイルス感染症の患者が多く確認された。この状況で年末の懇親会や宴会のキャンセルが発生し、地元の飲食店には大きな影響が出ている。そのため、年末年始にかけて経済的な影響を大きく受ける業種に対して追加の支援を行うもの。宿泊業、飲食店、タクシー業、運転代行業を対象に飲食店等応援補助金を追加で交付することとした。

詳細について説明させていただく。12月補正の内容としては新型コロナウイルス感染症関連経済対策事業。予算の額としては1億6,215万6千円補正する。中身については、「飲食店等応援補助金」の拡充措置となる。4月、5月の段階で令和2年3月分の上下水道料相当額を基本とした応援補助金を実施しているが、その時は3月分の上下水道料の5倍を交付した経緯がある。今回はそれとは別に、10倍を上乗せして交付するというもの。旅館、ホテルについては上限額500万円、飲食店については200万円。タクシーと運転代行業については登録1台当たり10万円を交付する。交付の要件としては10月17日時点で営業を継続している店舗、事業者としている。申請の方法は、手続きを複雑にたくないという思いがあり、5月に交付を受けている事業者については申請不要で追加交付する。新規に開店した店などは申請いただく必要がある。交付の方法は口座振込み。5月に交付を受けた事業者についてはすぐに振込みを行うということを考えている。年末年始に間に合うよう、なるべく早く交付したいという思いでいる。

1事業者について2店舗以上ある場合には合算する。上限額は1事業者当たりの上

限度とする。旅館やホテルであれば 500 万円。飲食店であれば 200 万円が上限。

まずは、今影響を受けている飲食店等について何らかの措置を行いたいと考え、追加補正を行ったもの。速やかに交付を進め、なるべく年内には交付できるよう事務処理を進めたい。

令和 3 年の賀詞交換会については開催中止となる。このような状況の中で一堂に会して集まるという状況ではないため、商工会議所と協議したうえで 1 月 4 日に予定している賀詞交換会については中止とする。併せて周知をお願いしたい。

記者／今回の追加経済対策は、Goto トラベルキャンペーンの一時停止を受けてのものと考えてよいか。

市長／その点だけではない。本市や山形県内での感染拡大を受けて、営業の自粛などが叫ばれている。その結果地元の中小の飲食店はかなり影響を受ける。それからホテル旅館、タクシー・運転代行業についても影響を受けるという思いがあり、経済対策について議会最終日に提案しようと思っていたところ今回の Goto トラベルキャンペーンの一時停止の話が出てきた。さらに深刻な影響が地元の飲食店等にあるだろうという思いから追加補正の決断を下した。ペイペイのキャンペーンは地元の店舗にとっては好評で、感染拡大がなければ、地元の経済対策としては十分機能したのではないかと思っていたが、冬場で人が外に出歩かない季節になっていることに加え、感染の拡大や Goto トラベルキャンペーンの一時停止などの状況を踏まえて対策を打たなければいけないという思いがあった。

記者／今回 10 倍の支援を行う根拠というものはあるか。

市長／前回の 5 月に 5 倍にしたというのも、「応援」の意味を込めたもの。今回は前回よりも感染状況などを踏まえ深刻度が増しているのではないかという思いがあり、前回の倍額である 10 倍ということにした。

記者／賀詞交換会について、1 月 4 日は中止ということだが、別の日に別な機会を設けるということは予定しているか。それとも、来年度はなしということか。

市長／賀詞交換会としてはない。しかしながら商工会議所会頭ともお話をしているが、新年に入ってコロナの感染状況が収まれば、なんらかの会があってもよいのではという話もしているが、今の段階では定かではない。

市長／上下水道料金を基にした支援制度の中身が分かりにくいということもあるが、基本的に 5 月に支援を受けている人であれば、手続きなしに追加で振り込むということになるが、新規に受けられる方などについては周知徹底しないといけない。各報道機関の皆様からもその点協力をお願いしたい。

【その他】

記者／新型コロナウイルス感染症に関する山容病院の件について、ある程度落ち着いた状況になってきていると思うが市としての新たな支援策などお伺いしたい。

市長／今のところ職員の方々やご家族の方々の宿泊施設の確保等で支援を行っている。また山容病院に限ったことではなく、現在頑張っている医療従事者の皆様に対して市民から応援の気持ちを盛り上げるための活動を、市民ボランティアや高校生等の学生と一緒にやっている。その他、市民の皆様にも、大人数での会食の自粛などについて啓発を図っていく。山容病院とは日々連携を取らせていただき、行政として支援する項目があればお話ししていただくようお願いしている。さらに庄内保健所と連携をしながら感染拡大防止に向けて全力を挙げていきたい。

記者／山形知事選において支援する候補について、現段階で定まってきたか。

市長／以前も記者会見で申し上げたが、立候補予定者の方の公約を見定めたいという思いがあり、態度表明できないでいる。現知事からはまだ公約が出ていない。本来であればそれを見て判断したいが、選挙の日程が迫ってきているため、自らの立ち位置を表明する時期が近づいてきていると感じている。吉村知事がこれまでやってきた県政については非常に評価している。酒田としてもクルーズ船の寄港や港の整備に力を注いでいただいた。一方で、これからの山形県、酒田を考えたときに、強力なリーダーシップ、国からいろいろな支援策を持ってくる力が求められると思う。今立候補を予定されている方が何をしようとしているのか、とりわけ酒田市長としては酒田にどのような施策を講じようとしてくれているのかということを見定めて判断をしていきたい。